

PBL活動報告書

福知山公立大学 情報学部情報学科

32545015 上道匠真

指導教員 橋田光代 准教授

提出日 2025 年 1 月 31 日

改訂日 2025 年 2 月 7 日

— 目次 —

1	はじめに	1
2	活動内容	1
2.1	推し全開！音楽&ご当地プレゼン	1
2.2	第3回美山音楽祭	1
2.3	ヴァイオリン演奏	1
2.4	ひとりで1作プロジェクト	1
2.5	みんなで1曲プロジェクト	1
3	今後の活動	1
4	まとめ	1

1. はじめに

私は、3年生より始まる研究活動の前段階として、音楽の複数分野に関する造詣を深め、研究者としての基礎的な力を身に付けることを目標に活動した。

2. 活動内容

2.1 推し全開！音楽&ご当地プレゼン

当プレゼンテーションは、ゼミに所属してから初めての発表となった。私は好きな音楽ジャンルである「ダブステップ」について、アーティストや楽曲の紹介を交えて紹介した。一目でアーティストの特徴がわかるように、画面を大きく使用したスライドを制作し、聞きやすい発表になるように工夫した。自身の発表の仕方について見直すと同時に、同級生や先輩方の発表の仕方を見て学ぶ機会になった。

2.2 第3回美山音楽祭

この企画は、初めて協同作業で1つの作品を作り上げる機会となった。私たちが行った活動は、「ひまわりの約束」の合唱だ。全員が揃う時間を取るのが難しく、満足な練習もできたとは言いがたい。しかし、互いにアドバイスし合い、上達していく経験は、のちの研究活動でも役に立つ貴重なものであると感じている。

当日は、長い時間を同級生や先輩方と過ごしたため、話す機会のなかった人とも会話をすることで、よりゼミの人間関係に溶け込むことができた。合唱は大きなミスなく演奏することができたが、同級生の中には、お客さんが少なかったことを悔やむ声もあった。次回はより力を入れて作品を作り、今回以上の盛り上がりにするという新たな目標ができた。

2.3 ヴァイオリン演奏

私は、ヴァイオリンを「初心者楽器」として手に取り、1年間練習してきた。手に取った理由は、自身の創作活動において頻繁に使用する擦弦楽器の知識を身に付けるためだ。現在は、音程がおおよそとれるようになり、短い曲を演奏できるようになった。後述の「ひとりで1作プロジェクト」、「みんなで1曲プロジェクト」でもヴァイオリンを使用している。しかし、まだヴァイオリンの演奏上の特徴をつかんだとは言いがたいため、さらなる上達を目指し練習を続けたい。

2.4 ひとりで1作プロジェクト

私は、自作曲「Deep sky under the world」のヴァイオリン演奏を行った。楽曲はこの企画のために新たに作り、ヴァイオリンパートは、自身の技術では難しいと感じる難易度に設定し制作した。作曲はDTMのみで行っているため、今まで行ってこなかった「演奏できる曲」作りの難しさを

実感した。

(以下、ひとりで1作プロジェクト実施後に記述)

2.5 みんなで1曲プロジェクト

2度目の共同作業となるこの企画では、「空も飛べるはず」の演奏を行った。私はヴァイオリンを担当した。

(以下、みんなで1曲プロジェクト実施後に記述)

3. 今後の活動

個人的な活動については、今後も楽器の練習を続けたいと考えている。ひとりで1作プロジェクトを通して、「演奏できる曲」の制作に興味を持った。ヴァイオリンの特徴をより深く知るため、さらなる練習を重ねるとともに、ピアノやギター等の他の楽器についても学びたい。

研究活動は、先輩方の研究を聞いたことをきっかけに、音楽における感情表現やその周辺分野に興味を持った。歌声、楽器、電子音など、それぞれの音における感情表現の手法の差や共通点を調べ、それを最大限活用した楽曲を制作する等の活動もしてみたい。研究活動として行うための知識などを身に付けるため、次年度も継続的に学習に取り組んでいきたい。

4. まとめ

(ひとりで1作、みんなで1曲実施後に記述)